

事前説明での意見及び回答(留萌中南部)

資料3-4

日 時: 令和7年1月20日(月)13:30~15:00、21日(火)13:30 ~ 15:00  
 場 所: Web会議 農村振興局第4会議室  
 出席者: 20日 乾委員、井上誠司委員、波多野委員  
 21日 井上京委員、大熊委員、宗岡委員  
 農村振興局 土地改良企画課、農地資源課、水資源課  
 畜産局 飼料課

番号	地区	該当項目	質問・指摘	回答	質問・指摘対応
1	留萌中南部	-	草地整備について、不陸が発生する要因を教えてください。	元々、地形的に凹凸がある場合と、草地管理を経年的に実施する中で、トラクターなどの重機で繰り返し作業をすることで、轍などが不陸となってしまう場合とが考えられる。	-
2	留萌中南部	-	家畜ふん尿を堆肥化し、草地に還元しているが、還元しきれなかった堆肥は畑作物の農地に撒いているのか。	当該地区ではTMRセンターが地区の草地を管理している。堆肥の散布量についても管理しており、生産した堆肥は、地区内の草地で全量が活用されている。耕畜連携にも取り組みたいとの意向はあるが、耕種農家へ提供する余分な堆肥はない状況。	-
3	留萌中南部	-	堆肥の還元量が増加し、化学肥料の使用量は減少しているのか。また、カーボンプレジットやみどりのシステム戦略等の推進について、地元JAや行政の動きはあるのか。	堆肥の還元量の増加にともない、化学肥料の使用量は減少していると思われる。カーボンプレジット等の取り組みについては、承知していない。これらについて確認する。	化学肥料の使用量は減少しているが、カーボンプレジットやみどり食料システム戦略に関連した動きは地区内ではない。
4	留萌中南部	資料3-1 P1	地区名は留萌「中南部」であるが、事業目的本文は「留萌振興局内のほぼ中北部に位置し」とある。問題ないか。	地区名の経緯を確認しつつ、事業目的の本文を修正する方向で検討する。	振興局の管轄市町村が再編(幌延町が留萌→宗谷振興局)される前までは、中南部に位置をしていた影響と考えられる。記載について、「ほぼ中北部に位置し」を削除する。
5	留萌中南部	資料3-1 P1	受益面積は621haだが、主要工事の草地整備及び草地造成面積を合計すると627haとなっている。どちらが正しいのか。	「受益面積」は最終計画時点の面積を記載している。一方、主要工事は、最終の出来高の施工面積を記載している。記載については検討する。	受益面積を627haに修正し、出来高面積と合うよう修正した。
6	留萌中南部	資料3-1 P3	乳用牛は減少している中、肉用牛は増頭しているが、酪農家が肉用子牛の生産をしているのか。	元々、当該地区には2戸の肉用牛農家が事業に参加しており、当該2戸が規模拡大する計画となっていた。評価時点(令和5年)の内訳については確認する。	肉牛は、肉牛専門農家2戸で、増加はそのうち1戸の農家(乳用種の肥育経営)である。(現況:323 → 464頭) もう1戸は肉用牛(黒毛・繁殖)ですが、飼養頭数は減少している。(現況:20 → 14頭)
7	留萌中南部	資料3-1 P4	乳価が上昇しているとのことだが、依然として酪農経営は厳しいので、その旨記載した方がよい。	ご指摘を踏まえ、反映したい。	ご指摘を踏まえ「畜産物の価格」の項目で、以下の記載を追記した。 「乳価は上昇しているものの、飼料・肥料等の生産資材価格は高止まりしており、依然として、酪農をめぐる経営環境は厳しい状況が続いている。」

事前説明での意見及び回答(南平和第2)

日時:令和7年1月20日(月)13:30~15:00、21日(火)13:30~15:00

場所:Web会議 農村振興局第4会議室

出席者:20日 乾委員、井上誠司委員、波多野委員

21日 井上京委員、大熊委員、宗岡委員

農村振興局 土地改良企画課、農地資源課、水資源課

畜産局 飼料課

番号	地区	該当項目	質問・指摘	回答	質問・指摘対応
1	南平和第2	-	本地区は国営美蔓地区の関連事業とのことだが、取水地点は芽室町にあるのか。また水不足等は生じていないのか。	新得町内の河川内の堰から取水して調整池へ貯留している。水不足が生じているという話は聞いていない。	-
2	南平和第2	-	やまのいもの作付けが増加していると説明があったが、本地区においては作付けはどの程度あるのか。	P3に示すとおり、令和5年では21haであり、平成29年現況よりは若干増加している。	-
3	南平和第2	資料3-2 P3	作付面積について、大豆や小豆が増加し、スイートコーンが大きく減少しているが要因はなにか。	地区外を含めたスイートコーンと大豆等との輪作による。表の数字はR5年度のもので、地区外を含めた作付面積は計画と大きく変化はしていない。	-
4	南平和第2	資料3-2 P3	作付面積について、小麦は近年経営の省力化の動きで、増加していると思われる。小豆の増加やじゃがいもの微減等は事業により、地区の輪作体系が維持されていると言えるのではないか。	計画においても現況と作付方式が変わっておらず、本事業を実施することで輪作体系を維持している。	-
5	南平和第2	資料3-2 P5	事業により単収が増加しているが、施肥量は増加しているのか。北海道の「YES!cleanマーク(北のクリーン農産物表示制度)」の取り組みの実施状況と、施肥量の基準の見直し等について、本地区での状況を教えてほしい。	確認して回答する。	施肥量は、増加していないとのこと。 「YES!cleanマーク」について、本地区該当ありません(芽室町内ではキャベツのみ認定があ、受益地内では作付け農家がない)

事前説明での意見及び回答(名寄東)

日 時: 令和7年1月20日(月)13:30～15:00、21日(火)13:30～15:00

場 所: Web会議 農村振興局第4会議室

出席者: 20日 乾委員、井上誠司委員、波多野委員

21日 井上京委員、大熊委員、宗岡委員

農村振興局 土地改良企画課、農地資源課、水資源課

畜産局 飼料課

番号	地区	該当項目	質問・指摘	回答	質問・指摘対応
1	名寄東	-	「YES!cleanマーク」の取り組みについて教えてほしい。	確認して回答する。	地区内では取り組みはない。 (名寄市内では、旧風連町内で、うるち米や大豆で認定あり)
2	名寄東	-	現地調査の聞き取りで、排水改善により秋の稲わらのすき込みについて農家から話があったとのことだが、メタンの排出削減やみどり戦略の取り組みの動きがあれば教えてほしい。	確認して回答する。	受益地内で、中干期間の延長で、カーボンクレジットの取り組みを行っている事例がある。
3	名寄東	資料3-2 P3	水稲(もち米)の作付け面積が増加しているが、P6では地域全体でも作付が増加しており、本地区が地域の他地区と比べてもち米の需要に応じた増産に寄与していると考えてよいか。	P6の生産組合全体では約2900haから3100haに約200ha増加しているが、本地区は受益面積264haであるにもかかわらず、約60ha増加しており、事業によるもち米増産への貢献度は高いと考えられる。	-
4	名寄東	資料3-3 P5	「担い手の体質強化」の記載について、「地区内の担い手が育成され」とあるが、認定農業者の数だけ見ると減少しており、整合がとれていない。 一方、若手農家の新規就農や後継者の確保等の動きがあるのであればそういった記載を加えてはどうか。	記載を修正する。	ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正した。 ①「地区内の担い手が育成され」→削除 ②最終パラに以下を追記(後段の②の最終パラの記載をこちらに移動) 「なお、本事業による営農作業の効率化や収量の増加による安定的経営により、新規就農者等若手の跡継ぎ確保も確認されている。」
5	名寄東	資料3-2 P5	ページ下文章「均一で高品質の」とあるが、なにが均一といっているのか。品質であれば「均質で」となるが、そのあとの高品質と表現が重複する。	記載について検討する。	ご指摘を踏まえ以下のとおり修正した。 「均一で高品質のもち米の大量生産に取り組んでいる。」 ↓ 「高い水準で均質化されたもち米の安定供給に取り組んでいる。」